

戦没者・開拓功労者慰霊祭と平和の誓い新たに

7月7日、戦没者・開拓功労者をしるぶ慰霊追悼式、慰霊音楽行進が郷土館（旧役場）横の「平和と開拓の礎」で行われました。

先人の労苦を慰霊するため毎年恒例で行っています。「平和と開拓の礎」には戦没者213柱、開拓功労者・物故者249柱を祭っています。

松岡市郎町長は、

列席者約100人を代表して「開基113年、戦後62年を迎え、町民が安心して暮らし、住んでよかったですと実感できる活力



「平和と開拓の礎」前で行った慰霊追悼式

あるまちづくりをするため、決意新たに全力を挙げます」と誓いを新たにしました。

町内市街地中心部では協賛行事の慰霊音楽行進も行われました。

陸上自衛隊第二音楽隊約30人を先頭に、幼児センターの幼児から東川中生徒まで、町内各校から約200人が市街地約1.5キロを音楽行進しました。第一小は道草館前で小太鼓演奏を披露しました。

5月15日、東川中、東川小、東川南の各校で「交流年」記念として招き、初めて来町しました。

インド仮面舞踊が公演

7月18日、農村環境改善センターでインドの伝統舞踊「セライケラ・チョウ」の公演が行われました。

「セライケラ・チョウ」とは、東インド・ジャールカンド州の

セライケラ地方に伝わる伝統的な仮面舞踊（チョウ）のこと。

寺院、王族の前で踊られてきた格式高い奉納舞踊だといえます。ゆっくりとした所作が連続する仮面の踊りと音楽は、日本伝統の能にも似た静と動の世界。日本とインド両国の「日印

ララ・スクリデ3姉妹の末妹が第1回ララ・スクリデコンサート

音楽の国・ラトビアから、音楽一家・スクリデ3姉妹の末妹、ラウマ・スクリデさん（26）が当町に3度目の来町をし、7月8、9日、東川ラトビア交流協会（青木哲也会長）が主催して農村環境改善センター、東川小でピアノソロコンサートを開きました。



農村環境改善センターの公演

ピアノリストとして日本デビューすることになり、デビューコンサートのため来日しました。「日本との橋渡しになった町に立ち寄りたい」という強い希望で、浜離宮コンサートホール（東京）での公演（12日）に先立って訪れてくれました。11年前、8年前に続いて3度目の来町です。会場には、前回



東川小でミニコンサート

の来町以来親しくなった町民やクラシックファンが来場しました。8年ぶりの再会と、美しい自然豊かな国を想像させるやさしい音色に酔いしれました。バイオリニストで姉のバイバさんは、すでに昨年日本デビューを果たし、姉妹で世界各国を舞台上にコンサート活動をしています。

平成4年、バルト3国の一国・ラトビアとの間で民間交流がスタートしました。その年町内にラトビア交流協会が発足し、今年結成15周年を迎えました。今も活発な交流が続いています。

中国人強制連行事件の慰霊祭と平和の誓い新たに

7月7日、東14号共同墓地で中国人強制連行事件殉難烈士慰霊祭が行われました。

東和土地改良区（荒川和雄理事長）、旭川日中友好協会（淀川徳会長）、東川町仏教会（会長・裏野堅正法城寺住職）などが中心となって毎年慰霊しています。

松岡市郎町長をはじめ、旭川、東川両市町の市議、町議のみならず、旭川華僑総会や在日朝鮮人会、在日民団関係者のほか、中国、韓国、モンゴルから来道している在旭留学生も加わり、約70人が列席しました。



昭和19年、忠別川江卸発電所建設の関連工事として造成された農業かんがい用の遊水池建設工事で、強制連行されてきた338人の中国人労働者のうち、88人が過酷な労働の中で死亡しました。その人々を供養するため、昭和47年に慰霊碑が建立されました。

この日は日中戦争の引き金となった盧溝橋事件（昭和12年）から70周年の「その日」と重なりました。慰霊碑建立35周年と併せて、改めて平和と日中友好の思いを新たにしました。

交流年」記念として招き、初めて来町しました。

東川中の生徒240人も観劇に訪れ、ホールは満員。エキゾチックなインド音楽独特の調べに乗せて、美しい仮面舞踊の世界に見入りました。



来町時の雑誌「REFLECTIONS」の撮影会

オーストラリア・シドニー市在住のイルマーズ・ローデンス、アストリドさんご夫妻からこのほど、東川ラトビア交流協会（青木哲也会長）に、オーストラリアの自然を紹介している写真集が届きました。同協会から町に寄贈を受けたので、町では文化交流館の所蔵本として一般に貸し出すことにしました。

本は、オーストラリアの風景写真家、ケン・ダンカン氏の写真集「REFLECTIONS」(22・7ページ×49ページ・68ページ、2004年刊)。同国内各地の美しい自然の数々を、パノグラフと呼ぶダイナミックな横長写真で紹介しています。

ご夫婦は、5月22日来旭し、ラトビア交流協会の青木会長らと懇親。松岡市郎町長を表敬訪問していました。



写真集「REFLECTIONS」

水田で田植えを見学、キトウシ展望閣から町内を見たり、ラトビア館、旭岳8合目の旭平展望台周辺を散策しました。二人はラトビア生まれ。第二次世界大戦中、ナチスに故国を占領されてオーストラリアへ移住しました。その後も故国への思いが熱かったようです。現役引退後、念願の日本旅行を実現。在日ラトビア大使館で東川にボランティア交流組織があることを聞き、感激して飛んできたそうです。



田植えを見学したローデンスさんご夫妻（右は青木さん、5月23日）